

第42回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、令和元年度 第7回薬事・食品衛生審議会医薬品等安全対策部会安全対策調査会	資料12
令和元年8月30日	

H P V ワクチンの情報提供に関する評価について

H P Vワクチンに関する情報提供について

1. 厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会での議論

○ 平成29年11月

国内外におけるH P Vワクチンの安全性や有効性に関する情報を整理し、評価いただいた。

ワクチンの安全性及び有効性に関する最新の知見を情報提供していくとともに、「機能性身体症状」については、医療関係者を始め、医学的知識のない方でもわかるように、理解を深めていただく方策が必要であるとされた。

○ 平成29年12月

これまでの審議会での議論の整理が行われ、H P Vワクチン接種後に生じた症状に苦しんでおられる方に対しては、引き続き寄り添った支援を行うべきとされ、また、H P Vワクチンについて、安全性や有効性の両方をよく理解していただくことが必要であり、そのために国民に対する情報提供を充実すべきであるとされた。また、情報提供については、科学コミュニケーションもしくはベネフィットリスクコミュニケーションが成立したと判断できる状態になることが必要であるが、情報提供しただけでなく理解されたかどうか評価することが必要、との意見があった。

2. 情報提供について

○ 平成30年 1月

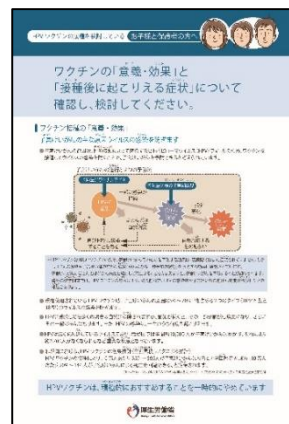
審議会における議論を経て、新しいリーフレットにより情報提供を開始。

<情報提供の方法>

- ・厚生労働省ホームページに公表
- ・情報を求めている方に対して市町村から情報提供
- ・接種を希望する方に対して、接種を受ける際に医師から情報提供

○ 平成30年 7月

審議会において、情報提供の評価の視点や評価方法について議論いただき、これに基づき、平成30年度中に評価を実施することとなった。



(接種を検討している方と保護者向け)



(接種を受ける方と保護者向け)



(医療従事者向け)

HPVワクチンの情報提供に関する評価 3 調査の概要

市区町村向け調査

調査①「HPVワクチンに関する厚生労働省リーフレットの活用等による情報提供の実績に関する調査」

【目的】 市区町村におけるリーフレットを含めた情報提供の実績を把握する。

【方法】 アンケート調査

【調査対象】 全1,741市区町村（回収率100%）

【調査期間】 2018年10月31日～11月20日（2018年8月末時点の状況を回答）

【調査項目】

- ・リーフレットの活用状況（自治体HPへの掲載の有無、種類、掲載日、アクセス数、窓口における配布数、その他）
- ・リーフレット以外による情報提供の方法 等

国民向け調査

調査②「HPVワクチンの情報に関する調査」

【目的】 幅広い年代における予防接種や子宮頸がん、HPVワクチンに関する情報をどのように把握しているかを把握する。

【方法】 インターネット調査

【調査対象】 調査会社に登録している一般国民（2749名）（年齢、エリアに偏りがないように調整）

【調査期間】 2018年10月19日～10月24日

【調査項目】 予防接種に対する認識、接種の判断に影響する関係者、HPVワクチンの意義・効果の認知、HPVワクチン接種後に起こりえる症状の認知、リーフレットの認知 等

調査③「リーフレットのわかりやすさに関する調査」

【目的】 リーフレットの内容が理解されるものであるかを評価する。

【方法】 少人数聞き取り調査（120分×2グループ）

【調査対象】 調査②のうち、定期接種対象年齢（12～16歳）の女子とその母親で調査への参加を希望する者（5組×2グループ）

【調査期間】 2018年11月

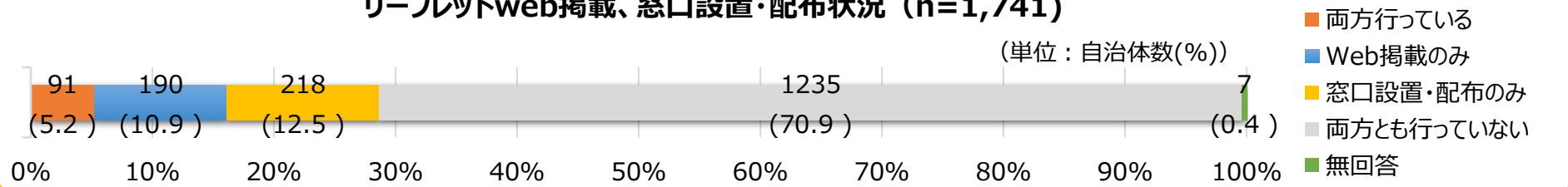
【主な項目】

- ・《リーフレットの各項目・文章》について理解できましたか。できなかった部分はどのような部分でしたか。
- ・このリーフレットは接種を判断するときの材料になると思いますか。

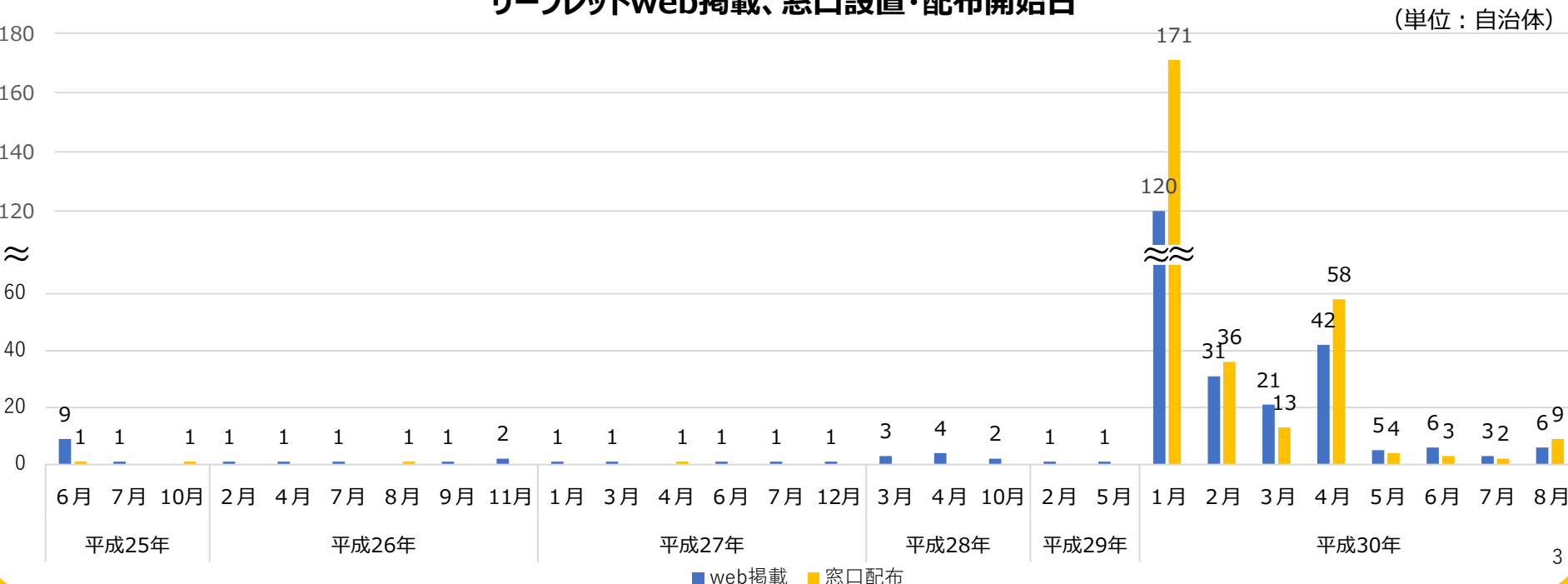
「リーフレットの掲載、窓口設置・配布状況」

- リーフレットについて「webページ掲載かつ窓口設置・配布」は91自治体、「webページ掲載のみ」は190自治体、「窓口設置・配布のみ」は218自治体、「両方とも行っていない」は1235自治体であった。
- 平成30年1月のリーフレット公表と同時に、web掲載や窓口設置・配布を開始した自治体が多かった。
⇒リーフレットを活用している自治体数は多くないが、国からの公表事項に合わせて情報提供が促進される傾向。

リーフレットweb掲載、窓口設置・配布状況 (n=1,741)



リーフレットweb掲載、窓口設置・配布開始日



「その他自治体独自の情報提供の取組」（自由記載より抜粋）

- 接種対象者やその保護者への周知
 - 接種対象者にリーフレット又は独自作成の案内等を送付・配付し情報提供
 - ✓ 何らかの情報提供を個別に行っている自治体数：97
 - ⇒うち、リーフレット（青、オレンジ、緑）のいずれかを対象者へ個別に送付・配付している自治体数：68
 - 接種申込者にリーフレット又は独自作成の案内等を使用し情報提供
 - 学校説明会等において情報提供
 - 新生児訪問、健診等において情報提供 等
- 医療機関への周知
 - リーフレットの配布、独自作成の予防接種に関する案内を送付
- その他の周知
 - 自治体ホームページに記事掲載（独自作成の案内、厚労省へのリンク等）
 - 自治体の広報誌、予防接種の手引き等へ掲載
 - モバイルサービスで配信
 - 問い合わせ時に説明 等

「その他自治体独自の情報提供の取組」（自由記載まとめ）

方法（複数選択可）		ツール（複数選択可）			
項目	自治体数	リーフレット	独自リーフレット等	その他	その他の詳細
1. 対象者へ送付・配付	97	68	16	15	平成25年6月版リーフレット、製薬会社リーフレット
2. 希望者へ送付・配付	168	141	8	19	平成25年6月版リーフレット、製薬会社リーフレット、口頭説明、不明
3. 医療機関へ送付・配付	182	176	1	5	平成25年6月版リーフレット、不明
4. その他	87	13	4	71	広報誌、口頭、モバイルサービス、ポスター
5. 機会があれば使用する予定	23	20	0	2	不明

注) カテゴリー分け

1. 対象者へ送付・配付 : 接種対象者・保護者へ一律に個別の情報提供を行っている

2. 希望者へ送付・配付 : 接種希望者や問い合わせ者へ個別の情報提供を行っている

3. 医療機関へ送付・配付 : 医療機関へ情報提供を行っている

4. その他 : 1～3以外の方法で情報提供を行っている

5. 機会があれば使用する予定 : 現時点では行っていないが、個別に相談を受けた場合等、機会があれば情報提供するつもりで準備している

調査② HPVワクチンの情報に関する調査 調査方法詳細

<調査の目的>

- HPVワクチンに関する情報が国民にどの程度浸透しているか、届いた情報がどの程度理解されているか明らかにする。

<調査方法>

- インターネット調査（12歳～16歳の男女は母親が横にいて代理回答する方式で実施）

<調査対象>

- 調査会社に登録している一般国民
⇒ 全日本の12歳～69歳の男女個人の縮図となるように2400人とし、国勢調査の構成比に合わせた性・年代別に設計（※ 1）。
また、エリア別の構成比も国勢調査の構成比に近似（※ 2）。
なお、「HPVワクチンの対象者(12歳～16歳の女子)の母親」の評価について、人数を確保するため別途300人以上を追加。

<調査期間>

- 2018年10月19日～2018年10月24日

<回収結果>

- 設計どおり2400人の回答を回収
- 「HPVワクチンの対象者(12歳～16歳の女子)の母親」については、上記2400人中の67人に加えて、別途371人を追加し、解析対象は合計438人

※ 1

1段目 度数口 2段目 横%		0	1	2	3	4	5	6	7
		TOTAL	12-16歳	17-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳
0	TOTAL	2400	160 7%	110 5%	350 15%	400 17%	500 21%	400 17%	480 20%
1	男性	1200	80 7%	55 5%	175 15%	200 17%	250 21%	200 17%	240 20%
2	女性	1200	80 7%	55 5%	175 15%	200 17%	250 21%	200 17%	240 20%

※ 2

		回収数 構成比	母集団 構成比※
男性	北海道、東北	4.4%	5.5%
	首都圏（北関東含む）	19.5%	18.0%
	中部（東海・北陸・山梨・長野）	8.4%	9.2%
	関西（2府4県）	9.4%	8.0%
	四国・中国・九州	8.3%	9.7%
女性	北海道、東北	5.8%	5.5%
	首都圏（北関東含む）	17.9%	17.2%
	中部（東海・北陸・山梨・長野）	8.6%	8.8%
	関西（2府4県）	8.5%	8.3%
	四国・中国・九州	9.2%	9.9%
TOTAL		100.0%	100.0%

一般に、予防接種を受けることは大事だと思いますか

一般に、予防接種を受けることは大事だと思いますか。

＜全体＞

「とても大事」「大事」計の回答率は、82%と大変高い

＜男性・女性＞

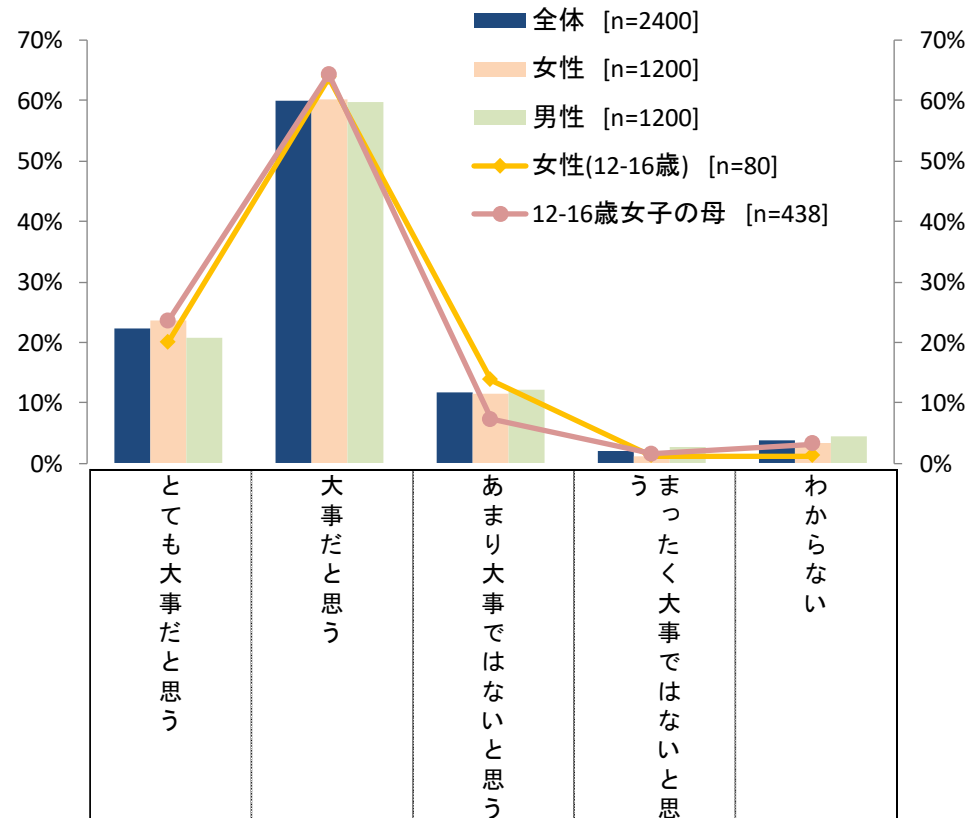
女性計の「とても大事」「大事」計の回答率は、84%と同じく高い
(男性計も同81%と高い)

＜12-16歳・女性＞

「とても大事」「大事」計の回答率も、84%と大変高い

＜12-16歳・女性の母＞

「とても大事」「大事」計の回答率は、88%と全体傾向よりもさらに高い



	n	とても大事だと思う	大事だと思う	あまり大事ではないと思う	まったく大事ではないと思う	わからない
全体	2,400	22.3	60.0	11.8	2.0	3.9
女性	1,200	23.7	60.3	11.5	1.3	3.3
男性	1,200	20.8	59.8	12.2	2.8	4.4
女性(12-16歳)	80	20.0	63.8	13.8	1.3	1.3
12-16歳女子の母	438	23.5	64.4	7.3	1.6	3.2

調査② HPVワクチンの情報に関する調査 調査結果 2

あなたやあなたの家族が予防接種をする時、誰の意見を参考にしますか。

＜全体＞

「かかりつけ医」34%で最多、次いで「母親」が27%「その他の家族」が17%と続く

＜男性・女性＞

女性は「かかりつけ医」42%で最多、次いで「母親」が30%「友人や知人」が20%と続く

男性は「かかりつけ医」27%で最多、次いで「母親」が24%「その他の家族」が17%と続く

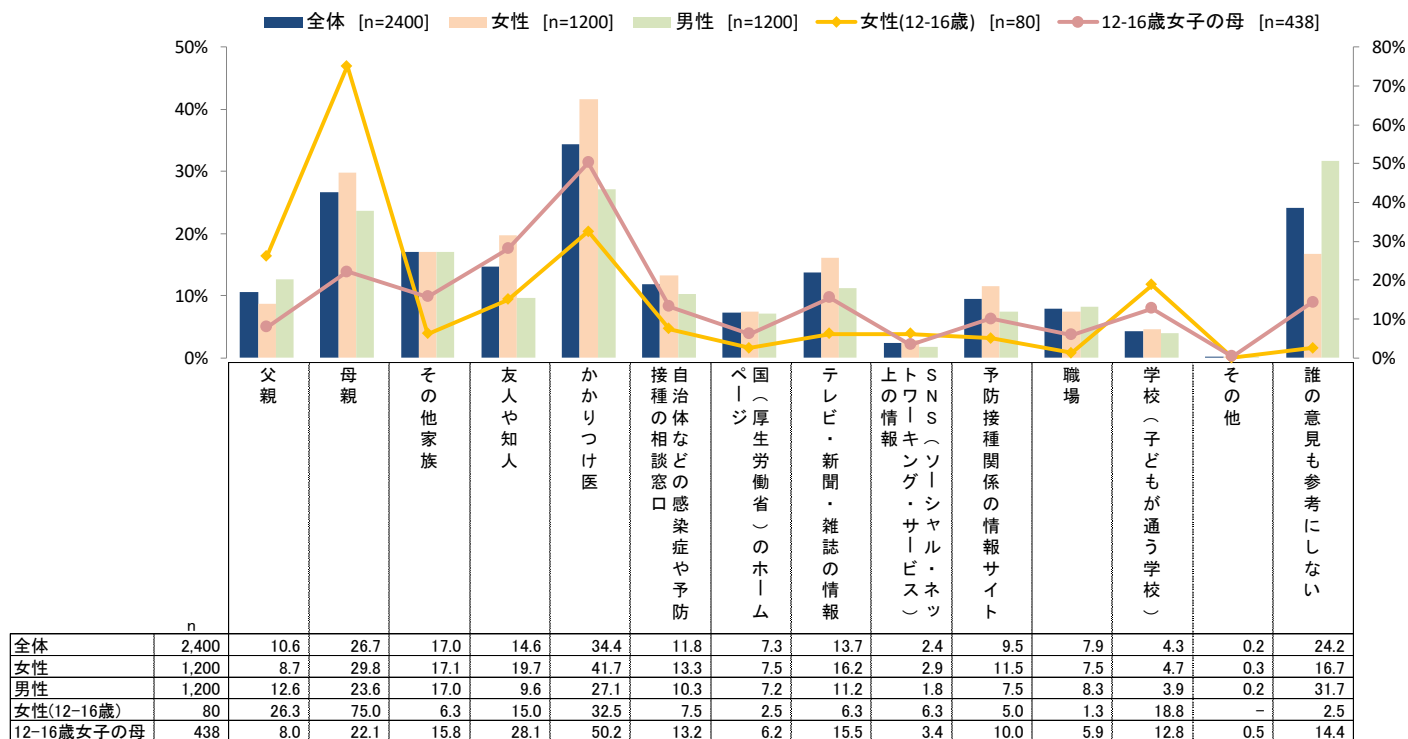
＜12-16歳・女性＞

「母親」75%「かかりつけ医」33%「学校」19%

＜12-16歳・女性の母＞

「かかりつけ医」50%「友人・知人」28%「母親」22%

あなたやあなたの家族が予防接種をする時、誰の意見を参考にしますか。あてはまるものを3つまでお答えください。



あなたはHPVワクチンの意義・効果のことを知っていますか。

HPVワクチンという用語については下記のとおり最低限の助成を行った
HPVワクチンとは、子宮頸(けい)がんなどの原因となるウイルスへの感染を予防するためのワクチンです

Q4 あなたはHPVワクチンの意義・効果のことを知っていますか。

<全体>

「知っている」「少し知っている」計は39%
「聞いたことがある」以上は66%
(非認知者34%)

<男性・女性>

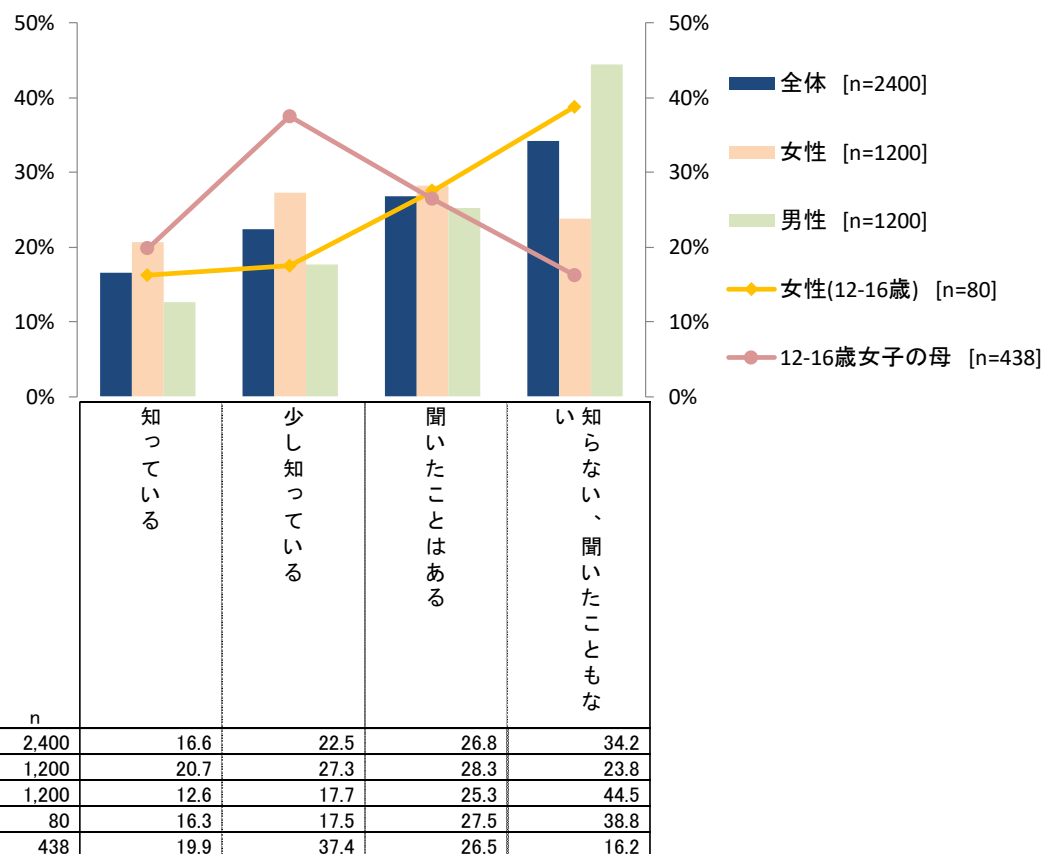
女性の「知っている」「少し知っている」計は48%
「聞いたことがある」以上は76%
男性の「知っている」「少し知っている」計は30%
「聞いたことがある」以上は56%
(非認知者45%)

<12-16歳・女性>

「知っている」「少し知っている」計は34%
「聞いたことがある」以上は61%
(非認知者39%)

<12-16歳・女性の母>

「知っている」「少し知っている」計は57%
「聞いたことがある」以上は84%に及ぶ



HPVワクチン接種後に起こりえる症状について、知っていますか。

<全体>

「知っている」「少し知っている」計は
32%

「聞いたことがある」以上は55%
(非認知者46%)

<男性・女性>

女性の「知っている」「少し知っている」
計は39%「聞いたことがある」以上は
66% (非認知者34%)

男性の「知っている」「少し知っている」
計は24%「聞いたことがある」以上は
43% (非認知者57%)

<12-16歳・女性>

「知っている」「少し知っている」計は
35%

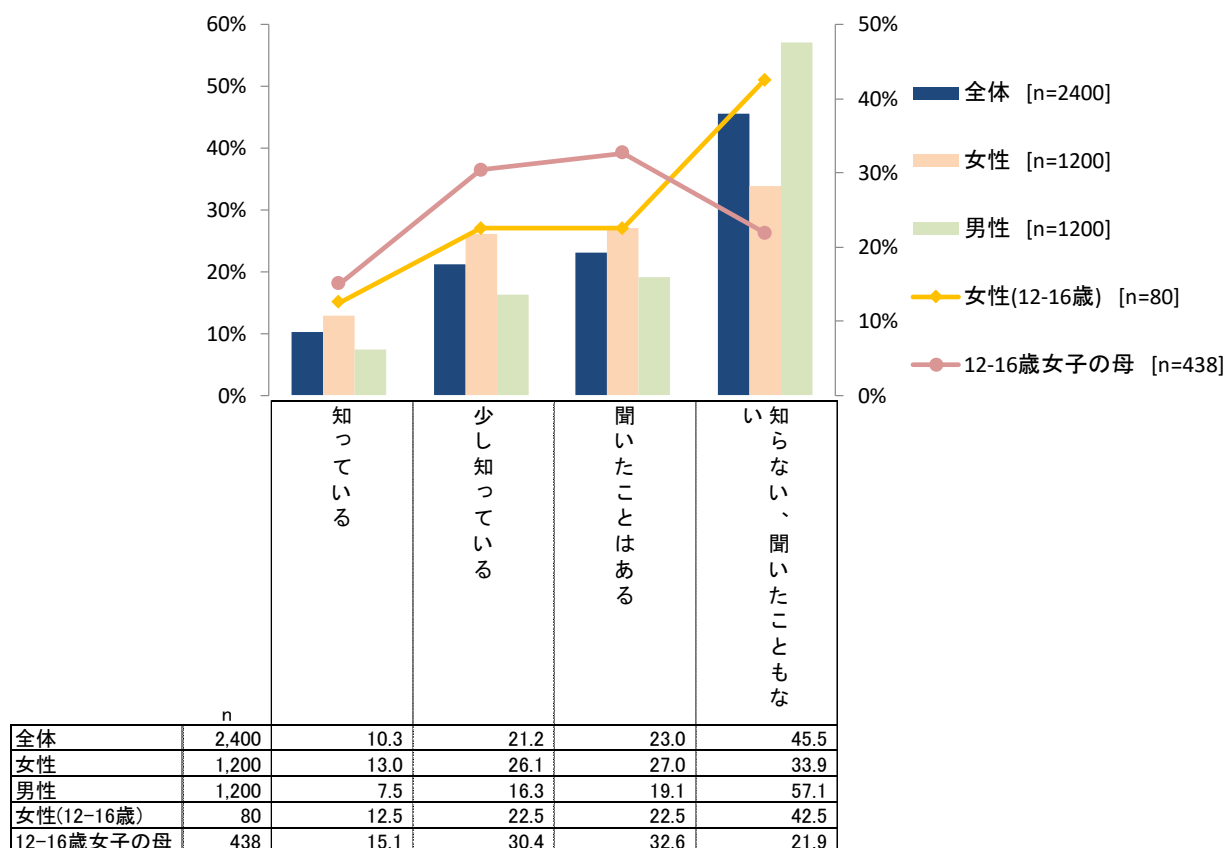
「聞いたことがある」以上は58%
(非認知者43%)

<12-16歳・女性の母>

「知っている」「少し知っている」計は
46%

「聞いたことがある」以上は78%
(非認知者22%)

HPVワクチン接種後に起こりえる症状について、知っていますか。



HPVワクチンの意義・効果について、どこから情報がほしいと思いますか。

<全体>

「TV新聞雑誌の情報」39%が最多、次いで「かかりつけ医」28%「自治体窓口」27%「予防接種情報サイト」24%

<男性・女性>

女性は「TV新聞雑誌の情報」45%「かかりつけ医」33%「自治体窓口」31%「予防接種情報サイト」29%

男性は「TV新聞雑誌の情報」33%「かかりつけ医」23%「自治体窓口」23%「国（厚生労働省）HP」19%

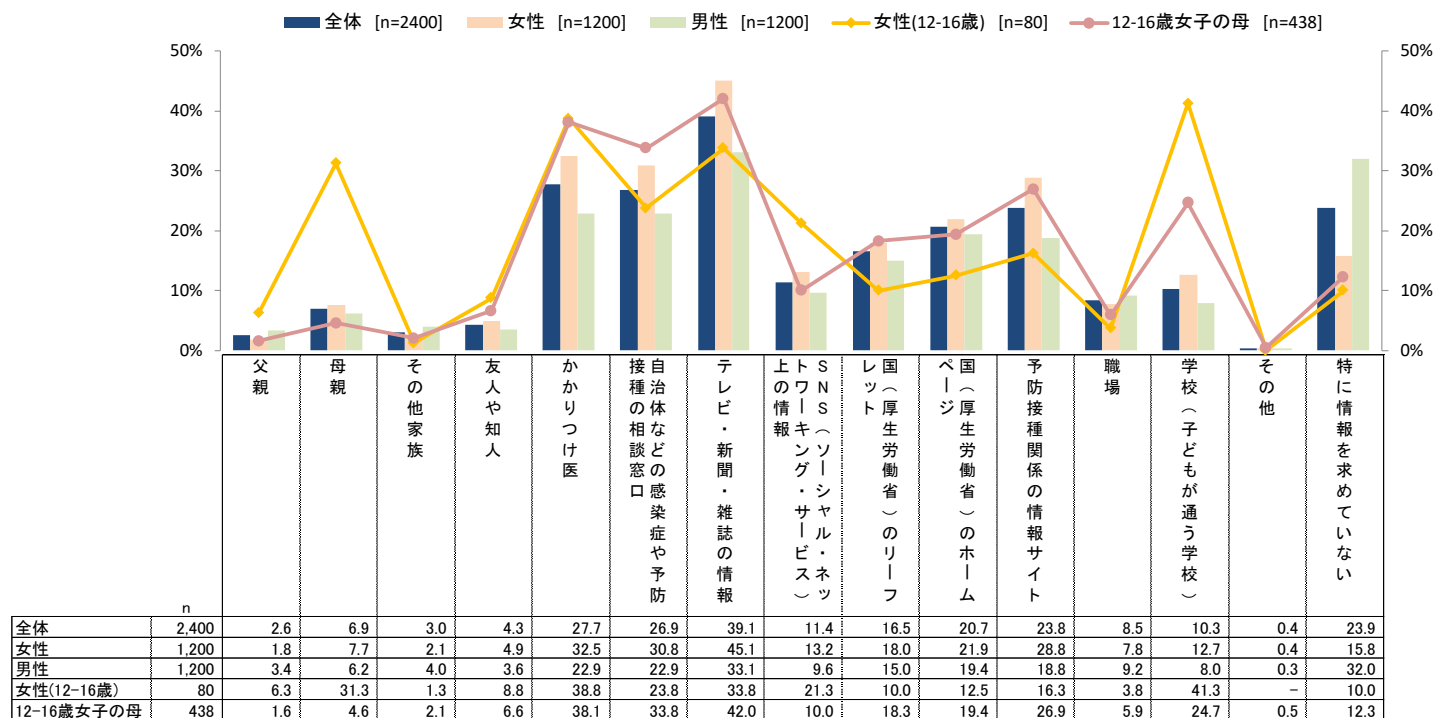
<12-16歳・女性>

「学校」41%「かかりつけ医」39%「TV新聞雑誌の情報」34%「母親」31%

<12-16歳・女性の母>

「TV新聞雑誌の情報」42%「かかりつけ医」38%「自治体窓口」34%「予防接種情報サイト」27%

HPVワクチンの意義・効果について、どこから情報がほしいと思いますか。あてはまるものをすべてお答えください。



HPVワクチン接種後に起こりえる症状について、どこから情報がほしいと思いますか。

<全体>

「TV新聞雑誌の情報」43%が最多、次いで「自治体窓口」30%「かかりつけ医」30%「予防接種情報サイト」27%

<男性・女性>

女性は「TV新聞雑誌の情報」50%が最多、次いで「かかりつけ医」36%「自治体窓口」36%「予防接種情報サイト」31%

男性は「TV新聞雑誌の情報」36%が最多、次いで「自治体窓口」24%「かかりつけ医」23%「予防接種情報サイト」22%

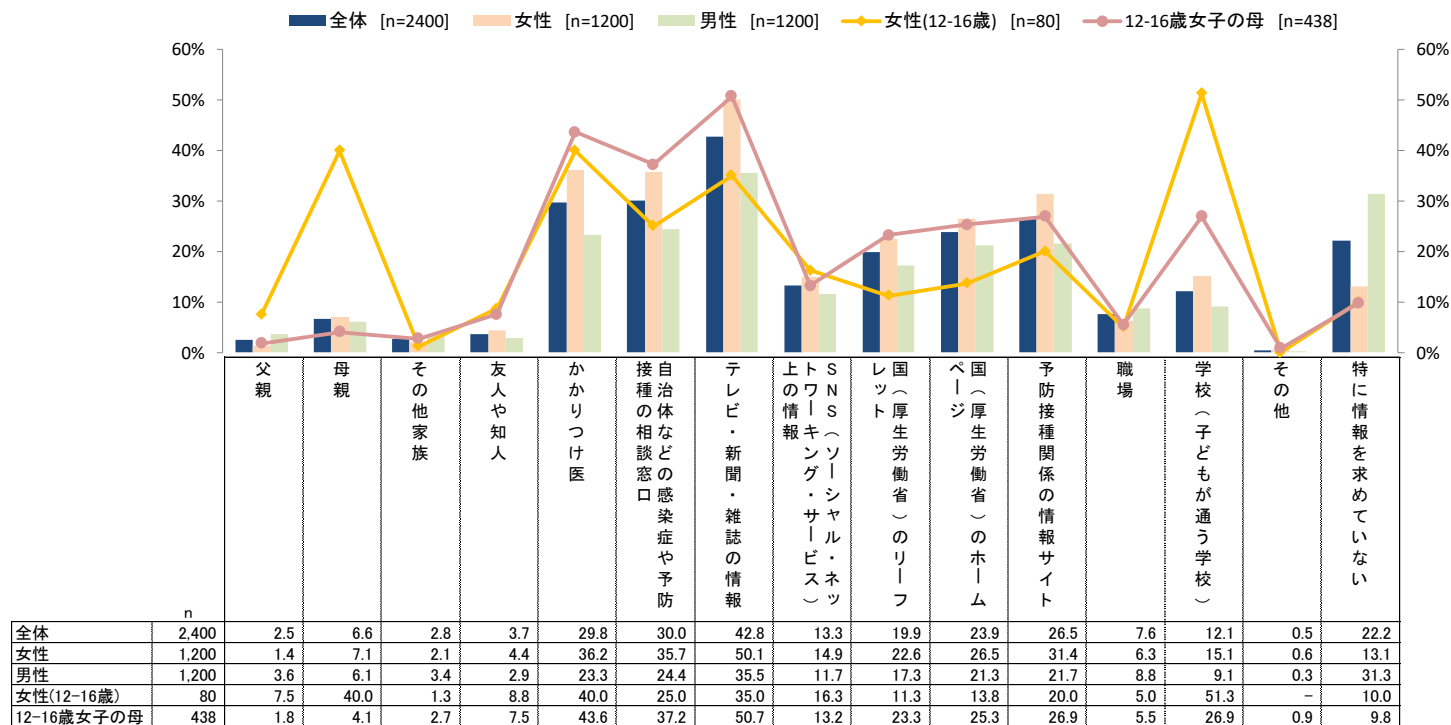
<12-16歳・女性>

「学校」51%「母親」40%「かかりつけ医」40%「TV新聞雑誌の情報」35%

<12-16歳・女性の母>

「TV新聞雑誌の情報」51%「かかりつけ医」43%「自治体窓口」37%「予防接種情報サイト」27%「学校」27%

HPVワクチン接種後に起こりえる症状について、どこから情報がほしいと思いますか。あてはまるものをすべてお答えください。



HPVワクチンのリーフレット(チラシ)を見たことがありますか。

HPVワクチンのリーフレット(チラシ)を見たことがありますか。

<全体>

「見たことある(たぶん含む)」

14%

<男性・女性>

女性の「見たことある(たぶん含む)」は13%

男性の「見たことある(たぶん含む)」は15%

<12-16歳・女性>

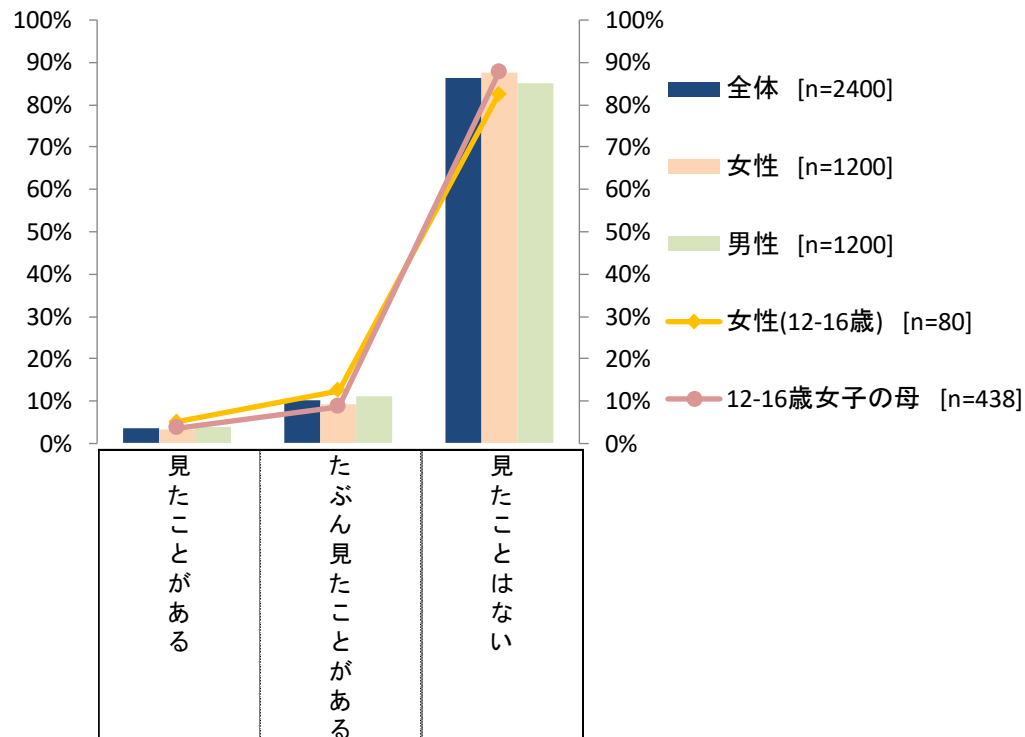
「見たことある(たぶん含む)」

18%

<12-16歳・女性の母>

「見たことある(たぶん含む)」

12%



	n	見たことがある	たぶん見たことがある	見たことはない
全体	2,400	3.6	10.1	86.3
女性	1,200	3.3	9.2	87.6
男性	1,200	3.9	11.0	85.1
女性(12-16歳)	80	5.0	12.5	82.5
12-16歳女子の母	438	3.7	8.7	87.7

「HPVワクチンの接種に対してどんな考えをお持ちですか。」

<全体>

「わからないことが多いため、決めかねている」 4 1 %
 「接種をしたいと思っているが、まだ接種していない」 1 7 %
 「今は接種したいと思っていないが今後検討したい」 1 2 %
 「接種したいと思っておらず、今後も接種の予定はない」 9 %

<女性・男性>

(女性)

「わからないことが多いため、決めかねている」 4 3 %
 「今は接種したいと思っていないが今後検討したい」 1 3 %
 「接種をしたいと思っているが、まだ接種していない」 1 2 %
 「接種したいと思っておらず、今後も接種の予定はない」 1 1 %

(男性)

「わからないことが多いため、決めかねている」 3 8 %
 「接種をしたいと思っているが、まだ接種していない」 2 8 %
 「今は接種したいと思っていないが今後検討したい」 1 0 %

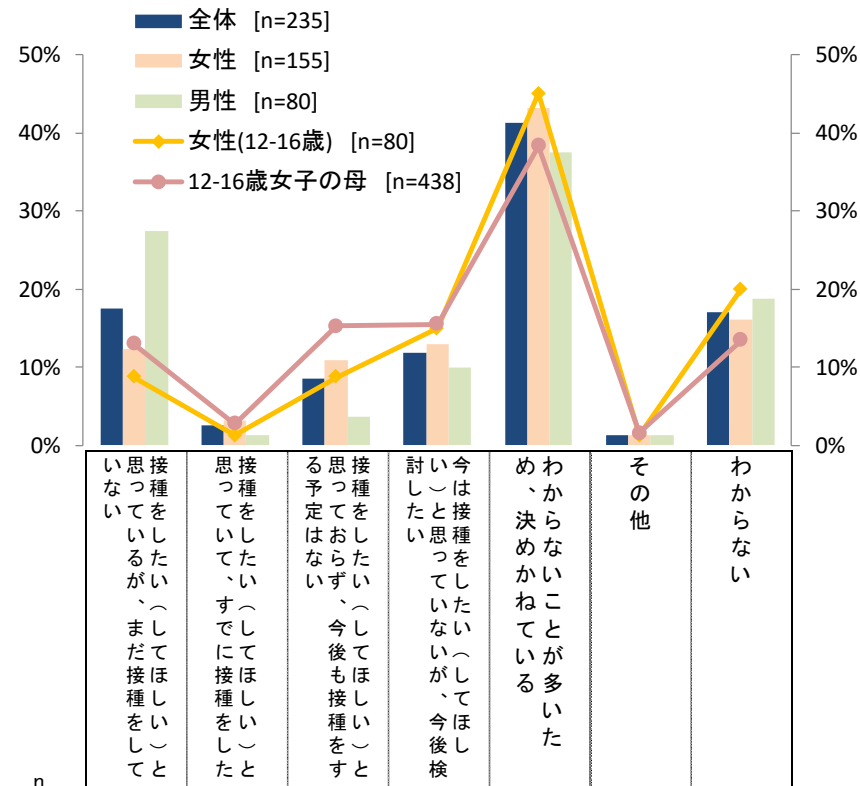
<12-16歳・女性>

「わからないことが多いため、決めかねている」 4 5 %
 「今は接種したいと思っていないが今後検討したい」 1 5 %
 「接種したいと思っておらず、今後も接種の予定はない」 9 %

<12-16歳・女性の母>

「わからないことが多いため、決めかねている」 3 8 %
 「今は接種したいと思っていないが今後検討したい」 1 6 %
 「接種したいと思っておらず、今後も接種の予定はない」 1 5 %
 「接種をしたいと思っているが、まだ接種していない」 1 3 %

「HPVワクチンの接種に対してどんな考えをお持ちですか。最も近いものを選んでください」



全体	235	17.4	2.6	8.5	11.9	41.3	1.3	17.0
女性	155	12.3	3.2	11.0	12.9	43.2	1.3	16.1
男性	80	27.5	1.3	3.8	10.0	37.5	1.3	18.8
女性(12-16歳)	80	8.8	1.3	8.8	15.0	45.0	1.3	20.0
12-16歳女子の母	438	13.0	2.7	15.3	15.5	38.4	1.6	13.5

調査③「リーフレットのわかりやすさに関する調査」 結果概要 1

【10組の調査対象者（定期接種対象年齢の女子とその保護者）へのグループインタビューでの意見（抜粋）】

○HPVワクチンについて

<調査対象者のHPVワクチンの認知状況>

- 保護者
 - ・「わからない／聞いたことはあるが説明できない」が10人中2人、「知っている」が10人中8人
- 接種対象者
 - ・「知らない」が10人中8人、「若干聞いた」が10人中2人

<調査対象者のHPVワクチンの認知内容・経路>

- 保護者
 - ・「子宮頸がんを防ぐために打つワクチンで、若い子に打つと有効」
 - ・「副作用（副反応）が出ることもある」
 - ・「（子宮頸がんについて）知った当時は性行為で感染するから遊び人になる病気という偏見が強かったと聞いた」
- 保護者の主な認知経路
 - ・「新聞」、「テレビのニュース」
- 接種対象者
 - ・「子宮のそういうので予防接種を受けるけど、それで逆に子宮の病気になる」
- 接種対象者の主な認知経路
 - ・「学校の授業」、「母親」

<調査対象者のリーフレットの認知>

- ・ 調査対象者の保護者、接種対象者では、リーフレットを認知している人はいない。

<調査対象者のワクチン接種についての意向>

- ・「テレビで副作用の出た方のインタビューを見て、怖いと思った」、「予防できるなら予防したいが、副作用のどる何%かの部類に入ったらどうしようと揺れ動いている」、「周りがやり始めて安心できらやる」

調査③「リーフレットのわかりやすさに関する調査」 結果概要 2

【10組の調査対象者（定期接種対象年齢の女子とその保護者）へのグループインタビューでの意見（抜粋）】

○ HPVワクチンの接種を検討している方と保護者向け（青リーフレット）

<調査対象者のリーフレット内容評価>

- ・ 子宮頸癌の進行と2つの予防法の説明がわかりづらい。
- ・ 子宮頸癌の罹患率、死亡率、ワクチン接種による回避等、数値や専門用語がわかりにくい。
- ・ 「HPVワクチンは積極的にすすめることを一時的にやめています」の文言が親心を不安にさせる。
- ・ 症状の記載について、あった方が良いという意見とない方が良いという意見がある。
- ・ 救済制度についてより具体的に記載があったほうが良い。

<調査対象者のリーフレットを読んだ印象・受け取り>

➤ 保護者からの印象

- ・ 「副作用がかなり書いてあるなという印象」
- ・ 「母親の責任をすごく感じる」
- ・ 「打ったら軽く済むのか、済むなら数値も載せてほしい」

➤ 保護者の受け取り

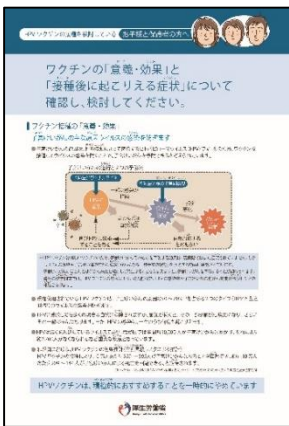
- ・ 「打って絶対にかからないわけではなく、副反応があるということが言いたい」、
- ・ 「ご家庭で判断してくださいという感じがする」、
- ・ 「打ちっぱなしではなく、検診を受けるなどその後のケアが必要ということが言いたい」

➤ 接種対象者からの印象

- ・ 「（副反応の）病名で、苦しくなるんだと思う」

➤ 接種対象者の受け取り

- ・ 「打った後に、必ずではないが、起こり得る可能性のことが書いてある」
- ・ 「打ったほうが予防はできるけれど、自分の体に痛みが出たり、どんなことが起きるかが書いてある」
- ・ 「家ごとに受ける、受けない、を判断する」、
- ・ 「子宮頸がんにならないわけではないからその後も定期的な検診が必要」
- ・ 「接種した後にほかに症状が出たら早く手当てをすることが重要」



（接種を検討している方と保護者向け）

調査③「リーフレットのわかりやすさに関する調査」 結果概要 3

【10組の調査対象者（定期接種対象年齢の女子とその保護者）へのグループインタビューでの意見（抜粋）】

○ HPVワクチンを受ける方と保護者向け（黄リーフレット）

<調査対象者のリーフレット内容評価>

- ・特に分かりづらい箇所はない。

<調査対象者のリーフレットを読んだ印象・受け取り>

➤ 保護者からの印象

- ・「まれですが・・・」と事実が書いてあると（副反応に）なってもしかたない、と受け取らないといけないかなと思う
- ・「「受けると決めたからには大丈夫ですよ」「でも事実を読んでくださいね」という印象を受け、読むと前向きになる」

➤ 保護者の受け取り

- ・「よく理解して、自分たちでよく考えてから受けてくださいということを伝えている」
- ・「受けたからと言って完璧ではないから検診も受けましょうと言いたい」
- ・「受けた後の体調変化には注意しようと伝えたい」

➤ 接種対象者からの印象

- ・「副作用が多すぎてどれかしらになる気がして、ちょっと怖い」
- ・「全体的に重要なところが強調されていないので、ひと工夫あってほしいと思う」

➤ 接種対象者の受け取り

- ・「注意事項が書いてある」



(接種を受ける方と保護者向け)

調査③「リーフレットのわかりやすさに関する調査」 結果概要 4

【10組の調査対象者（定期接種対象年齢の女子とその保護者）へのグループインタビューでの意見（抜粋）】

○ 調査対象者の2種のリーフレットの役割認識

ワクチン接種の判断材料になるか否かについては、両方の意見が聞かれる。

➤ 判断材料になっているとする人の意見

- 「30～50%は違うウィルスからかかるということだと思い、判断材料になる」
- 「検診で発見されることより副反応が怖い」
- 「打ってもなる可能性があるなら、定期的に検診に行った方がいい」
- 「「ワクチンを受ける・・・」リーフレットでリスクもあるが、事実を隠さずに載せてあり、安心感も受け取れた」

➤ 判断材料にならないとする人の意見

- 「ワクチンを打った場合と打たずに検診で早期発見した場合と、最終的にどれくらいがんにかかる率が変わるのかというデータがあると判断しやすい」
- 「打たないで子宮頸がんになった時にどうなるのかも知りたい」
- 「資料だけで判断するのは怖い」
- 「判断するには情報が足りない」
- 「資料だけでは決められない」

ＨＰＶワクチンの情報提供に関する評価（調査結果） まとめ

- 厚生労働省がＨＰで示しているリーフレットを活用した情報提供（Webページ掲載や窓口設置・配布）を行っている自治体数は限られており、リーフレットに関する国民の認知は十分ではない。
- Webページ掲載や窓口設置・配布以外にも独自に情報提供を行っている自治体があり、一部は対象者に対して個別に送付・配付している。
- 予防接種に際しては、かかりつけ医や保護者の意見が参考にされている。
- ＨＰＶワクチンの意義・効果・起こりえる症状について、ＴＶ新聞雑誌等のメディア、かかりつけ医、自治体窓口からの情報が求められている。
- リーフレット内容については、ＨＰＶワクチンのベネフィットとリスクを伝えるものとして理解されているが、表現についてはより分かりやすい表現が求められている。



- ① ＨＰＶワクチンの接種対象者やその保護者に対し、より確実に情報を届ける方法を検討する必要があるのではないか。
- ② より分かりやすいリーフレットとするために、調査結果等を踏まえて記載内容を改訂してはどうか。